

平成22年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

豊かに生きるためのリテラシー獲得をめざした教育課程に関する研究開発

2 研究の概要

生徒がこれからの人生を豊かに生きていくための「現実世界と交渉する知的なツール」として各教科の基礎・基本をとらえ直し、それらの転移を促すことで「豊かに生きるためのリテラシー」を獲得させることをめざす。そこで、必修教科、総合的な学習の時間、及び標準授業時数の枠外となる選択教科からなる今次の教育課程の基礎的な枠組みについて、「各教科の基礎・基本の転移を促すための効果的な学びの領域として十分に機能するか」、及び「教科と総合的な学習の時間の学びが相互に作用するか」という2つの視点から再考し、より望ましい教育課程の基礎的な枠組みの在り方について研究開発を行う。

具体的には、

- ・教科と総合的な学習の時間における学びが、よりよい社会及び人生の実現につながると実感できることをめざし、教育課程の基礎的な枠組みの中に、新領域「サプリ・フィールド」を位置付け、その可能性について検証する。
- ・教科を、「現実世界と交渉するための知的なツール」としてとらえ直した基礎・基本の意味や価値を実感させ、熟達化へ向かわせるための「習熟」の時間として位置付ける。各教科固有の課題解決の過程で、有用なツールとして各教科の基礎・基本を活用しながら意味や価値を実感し、あらゆる場面や状況でそれらを使いこなす（熟達化）ための領域とし、その効果を検証する。また、新領域「サプリ・フィールド」や総合的な学習の時間の生徒の実態から見えてきた基礎・基本の「理解」の状態を整理しながら、効果的に基礎・基本の転移を促す学習ユニットを開発し、その効果を検証する。
- ・総合的な学習の時間を、教科や新領域「サプリ・フィールド」における学びを評価しながら効果的な指導を施すことで、各教科の基礎・基本の意味や価値を自ら更新していくことを期待する「探究」の時間として位置付ける。自らの課題を見いだすとともに、教科や新領域「サプリ・フィールド」の学びとの関連を大切にしながら探究できる領域とし、その効果を検証する。
- ・新領域「サプリ・フィールド」を、教科と総合的な学習の時間で十分に使いこなせていない各教科の基礎・基本について、その意味や価値を拡張させるための「拡張」の時間として位置付ける。教科の枠を超えた現実的な問題に内在する課題を解決する過程で、各教科の基礎・基本の拡張された意味や価値を見いだす領域とし、その効果を検証する。

※ 本研究の経緯及び基本的な考え方については、実施報告3～8ページを参照

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

本研究では、豊かに生きるためのリテラシーの獲得をめざして、総合的な学習の時間を教科における学びの指導と評価のための探究の時間と位置付け、教育課程の基礎的な枠組みを再考することを試みている。教育現場の現状を見ると、教科の学びと総合的な学習の時間の学びが、生徒の中ではもちろん、指導者である教師の中でもその関係性をとらえきれずにいる場合が多いと言えよう。本研究では、この課題に対する一つの「こたえ」を提案しようとしているのである。

そこで、教科と総合的な学習の時間の学びが相互に作用することをねらい、新領域「サプリー・フィールド」を教育課程の基礎的な枠組みの中に位置づけることにした。新領域「サプリー・フィールド」では、【資料1】に示す豊かに生きるための主要因に深くかかわるテーマを設定し、テーマに内在する諸課題と各教科の関連を探りながらパフォーマンス課題を開発し、それを解決させる過程で、これからの人生を豊かに生きていくための「現実世界と交渉する知的なツール」としてとらえ直した各教科の基礎・基本を提案することで、その意味や価値を拡げさせることをねらっている。

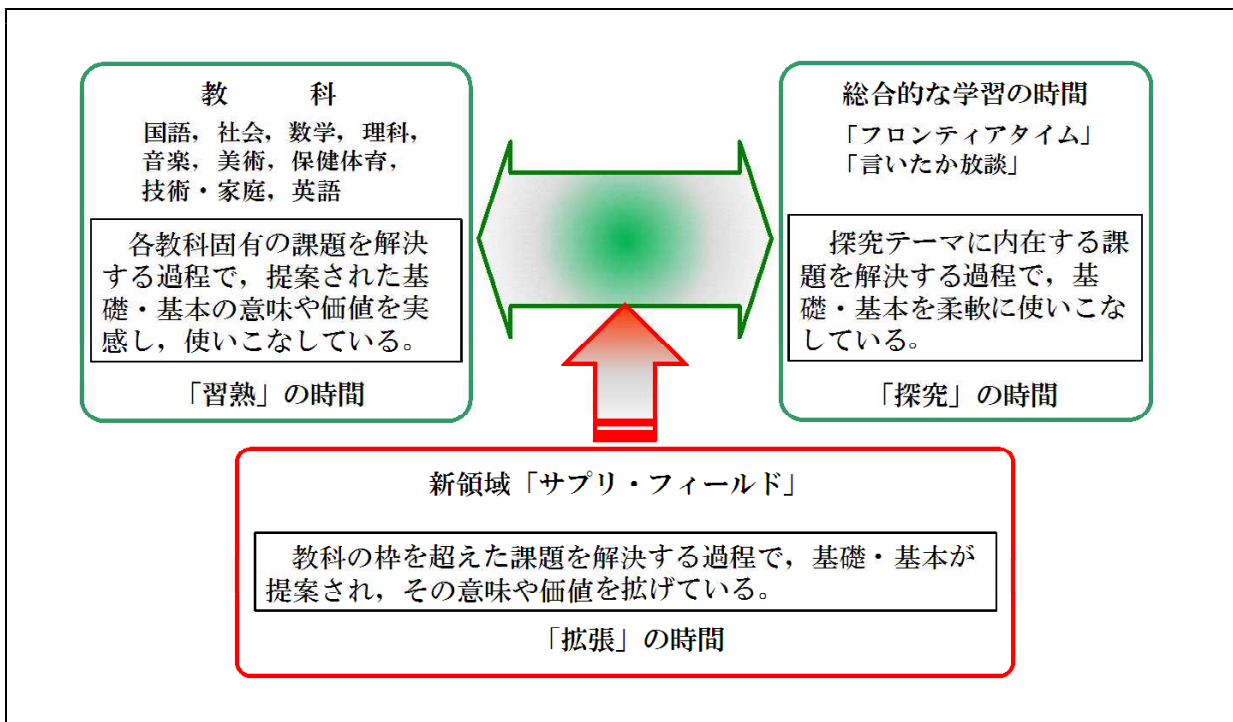
【資料1】豊かに生きるための主要因のカテゴリー

経済資源・福祉、健康・安全、芸術・文化、人間関係・個性、生産・消費、環境・開発、メディア・情報、国際・共生

※ 詳細は、実施報告8ページを参照

以上のような課題意識の基に、本研究では【資料2】に示すような教育課程の基礎的な枠組みを構想した。

【資料2】「豊かに生きるためのリテラシー」獲得をめざした教育課程の基礎的な枠組み



(2) 教育課程の特例

- ・教科、及び総合的な学習の時間の配当授業時数の弾力的な取り扱い（配當時数）
- ・新領域「サプリー・フィールド」の新設

※ 新領域「サプリー・フィールド」で取り扱う内容については、総合的な学習の時間と教科の学びの相互作用に着目し、設定するテーマと教科の基礎・基本との関連を探りながら取り扱う内容を吟味する。そのために新領域「サプリー・フィールド」の内容については、学習指導要領の範疇外であっても積極的に取り扱う。また、教科についても、同様とする。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

【資料3】は、本研究における教育課程の基礎的な枠組みに位置付けている各学びの領域にどのような特徴があるのかを整理したものである。

【資料3】教育課程の基礎的な枠組みに位置付けた各学びの領域の特徴

領域	教科 【国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健, 技術・家庭, 英語】	新領域 サブリ・フィールド	総合的な学習の時間	
			言いたか放談	フロンティアタイム
役割	【習熟の時間】 各教科の基礎・基本の意味や価値を実感させ、熟達化を図る。	【拡張の時間】 各教科の基礎・基本の意味や価値を拡張させる。	【探究の時間】 各教科の基礎・基本の意味や価値を自ら更新させる。	
学習集団	学級集団	学級集団	小グループ(20名程度)	個人, チューターグループ
課題設定者	教師	教師	教師, 生徒	生徒
課題	各教科固有	テーマに基づき現実的	社会事象に内在	探究テーマに内在
提案する 基礎・基本	各教科固有の課題に対する有用な知的ツールとして	テーマと関連し, 教科と総合的な学習の時間の実態を踏まえて	社会事象や探究テーマに内在する課題を解決する際に, 有効なツールとして	
評価する 「理解」	基礎・基本を課題解決のツールとして使いこなしているか。	基礎・基本の意味や価値を拡張しているか。	課題を解決する過程で, 各教科の基礎・基本を柔軟に使いこなしているか。	

※ 各領域の位置づけとその特徴については、実施報告の12～14ページを参照

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> 「豊かに生きるためのリテラシー」獲得をめざした教育課程の基礎的な枠組みを, OECDのキー・コンピテンシーの3つのカテゴリーを参考に検討 総合的な学習の時間として, 「フロンティアタイム」を実施 総合的な学習の時間として, 「言いたか放談」の試行実施 各教科が役割を担う「豊かに生きるためのリテラシー」の再検討 新領域「サブリ・フィールド」の内容とねらいの検討
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の基礎的な枠組みを, 第一年次の成果と課題をふまえて再検討 「フロンティアタイム」を第一年次の成果と課題をふまえた改善・実施 「言いたか放談」を第一年次の成果と課題をふまえた本格実施 基礎・基本の意味や価値を実感できる教科の授業の改善・実施 新領域「サブリ・フィールド」の試行実施 教育研究発表会の開催(全領域公開授業, 及び協議会)
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の基礎的な枠組みを, 第二年次の成果と課題をふまえて再検討 「フロンティアタイム」を第二年次の成果と課題をふまえた改善・実施 「言いたか放談」を第二年次の成果と課題をふまえた改善・実施 基礎・基本の意味や価値を実感できる教科の授業の改善・実施 新領域「サブリ・フィールド」を実施 教育研究発表会の開催(新領域公開授業, 及び協議会)

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	<ul style="list-style-type: none">・全国学力実態調査の生徒用質問紙を用いて、生徒の学習状況を調査・総合的な学習の時間「フロンティアタイム」、「言いたか放談」について、生徒の実態調査を実施し、指導の効果を検証<ul style="list-style-type: none">※ 第1学年の生徒を対象に抽出生徒を選出し、ポートフォリオ分析、及び意識調査を実施・総合的な学習の時間「言いたか放談」のテーマの有効性と妥当性を検証・新領域「サプリ・フィールド」の内容とねらいについて、総合的な学習の時間と教科における生徒の実態、及び様々な文献を基に検討
第二年次	<ul style="list-style-type: none">・全国学力実態調査の生徒用質問紙を用いて、生徒の学習状況を調査・第一年次に引き続き、総合的な学習の時間「フロンティアタイム」、「言いたか放談」について、生徒の実態調査を実施し、指導の効果を検証<ul style="list-style-type: none">※ 第2学年の生徒を対象に抽出生徒を選出し、ポートフォリオ分析、及び意識調査を実施・試行実施する新領域「サプリ・フィールド」の学びの在り方を、豊かに生きるためのリテラシー獲得の視点、及び抽出生徒の変容から検討・11月に研究発表会を開催し、総合的な学習の時間と各教科の相互作用に着目した教育課程の成果と課題を検討
第三年次	<ul style="list-style-type: none">・第二年次の成果と課題を踏まえて、9月に研究発表会を開催し、新たに構想した教育課程の基礎的な枠組みの成果と課題を整理<ul style="list-style-type: none">※ 総合的な学習の時間における生徒の変容より※ 新領域「サプリ・フィールド」の生徒の実態より※ 改善した教科の授業における生徒の実態より※ 各教科の基礎・基本を見つめ直した経緯より

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 生徒への効果

3年間の取り組みの中で、新領域「サプリ・フィールド」を教育課程に位置づけ実践的研究を行った結果、豊かに生きるためのリテラシー獲得に向けて、教科と総合的な学習の時間の学びが有機的に作用する領域として、重要な鍵を握る領域であることが分かってきた。特に、新領域で取り混ぜるパフォーマンス課題を、教科の枠を超え、豊かに生きるための主要因に基づいたものにより、各教科がリテラシー獲得に向けてどのような役割を果たしているのかが明確になることが分かってきた。本研究で構想した教育課程の基礎的な枠組みの中に位置付けた各領域の成果は以下の通りである。

◇ 教科

各領域の学びの実態から、学習ユニットにおけるパフォーマンス課題を改善し、その解決の過程で豊かに生きるためのリテラシー獲得の視点からとらえなおした基礎・基本を課題解決のツールとして提案したところ、それらの有用性を実感しながら「理解」に達する生徒の姿が多くみられるようになってきた。

※ 各教科の生徒の実態及び取り組みの成果の詳細は、実施報告の以下のページを参照

国語科：109ページ

社会科：115，119ページ

数学科：126，130ページ

理科：137，141ページ

音楽科：147ページ

美術科：153ページ

保健体育科：159ページ

技術・家庭科：165，171ページ

英語科：177，181ページ

◇ 新領域「サプリ・フィールド」

新領域「サプリ・フィールド」では、豊かに生きるための主要因とかかわりが深く、将来直面する現実的なテーマに基づいてパフォーマンス課題を開発している。このような課題を解決させる過程で、教科の基礎・基本を課題解決のツールとして提案することで、教科の基礎・基本の拡張された意味や価値をつかませることができてきた。

※ 新領域「サプリ・フィールド」の生徒の実態及び取り組みの成果の詳細は、実施報告の20～64ページを参照

◇ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、自己実現のための「フロンティアタイム」、社会を見つめ直す「言いたか放談」で構成した。それぞれの「探究の時間」において、効果的な指導を展開することにより、教科の基礎・基本を自ら更新していく生徒の姿がみられるようになってきた。特に、コミュニケーションを軸にした探究活動を仕組むことにより、個性豊の表現ができるようになった生徒が多くみられたことが最大の成果である。

※ 総合的な学習の時間の生徒の実態及び取り組みの成果の詳細は、実施報告の以下のページを参照

「フロンティアタイム」：91ページ

「言いたか放談」：104ページ

② 教師への効果

3年間の取り組みの中で、新領域「サプリ・フィールド」を教育課程に位置づけ実践的研究を行った結果、担当する教科の存在価値を見つめ直すよい機会となったようである。特に、新領域「サプリ・フィールド」の在り方を検討していく際、豊かに生きるための主要因とかかわりが深いテーマに基づいて、パフォーマンス課題を開発し、テーマの鍵を握るキーワードと教科との関連を模索していくことで、教科の本質を探るきっかけとなり、教科の学習ユニットにおける課題の開発に示唆を与えてくれている。また、成果の重要な部分として、新領域「サプリ・フィールド」の学習指導要領案を作成することができたことが挙げられる。

※ 各教科の担当教師の声については、実施報告186～192ページを参照

※ 新領域「サプリ・フィールド」の学習指導要領（案）については、実施報告65～78ページを参照

③ 保護者等への効果

総合的な学習の時間を中心に学校開放日を設け、多数の保護者の方々に参観していただいた。本校では、多くの保護者の方々に本校の教育活動についてのご理解をいただいている。

※ 保護者アンケートの結果については、実施報告196ページを参照

(2) 実施上の問題点と今後の課題

3年間の取り組みの中で、豊かに生きるためのリテラシー獲得に向けて、教科と総合的な学習の時間の学びが有機的に作用するためには、新領域「サプリ・フィールド」の学びが重要な鍵を握ることが分かってきた。特に、サプリ・フィールドで、各教科の基礎・基本の意味や価値を拡げることができることが確認できたことが本研究の最大の成果であろう。言い換えれば、教科の枠を超えた課題解決を仕組み、その中で各教科の基礎・基本の意味や価値をつかませることは、教科の枠内で指導するよりも効果的であり、各教科の配当時数を削減することにより生じるデメリットを大きくカバーできると言える。しかしながら、配当時数の問題、及び新領域「サプリ・フィールド」や総合的な学習の時間「言いたか放談」のテーマの妥当性など整理しきれなかった多くの課題が明らかになってきた。また、本研究で新たに構想した教育課程の基礎的な枠組みの中に位置づけた各領域の課題については、次のように整理した。

◇ 教科

新領域「サプリ・フィールド」の学びを軸に、教科と総合的な学習の時間の相互作用に着目しながら、学習ユニットにおける課題を改善していく必要がある。

※ 各教科の具体的な課題とその根拠については、実施報告の以下のページを参照

国語科：109ページ

社会科：115, 119ページ

数学科：126, 130ページ

理科：137, 141ページ

音楽科：147ページ

美術科：153ページ

保健体育科：159ページ

技術・家庭科：165, 171ページ

英語科：177, 181ページ

◇ 新領域「サプリ・フィールド」

テーマについては、豊かに生きるための主要因と深くかかわり、将来直面する現実的なものをテーマにすることが前提であるが、「教科の基礎・基本を活用させる」ことを前提に設定したものもあった。また、テーマに基づくパフォーマンス課題を開発する際に、テーマの鍵を握るキーワードと教科との関連を模索することが十分でない場合は、教科の基礎・基本を活用する課題に止まり、教科の学習ユニットにおける課題との差異が不明確となった。さらに、パフォーマンス課題を解決させることを前提に指導計画が立案できていないことは、根本的な問題であった。そこで、今後の課題を次に示す。

- テーマの妥当性を整理する必要がある。ここでは、「豊かに生きるための主要因とのかかわり」、「現実的に将来直面する可能性」の視点からテーマを見直すことが重要となる。
- 開発したパフォーマンス課題の妥当性を整理する必要がある。ここでは、パフォーマンス課題を開発したプロセスを見直すことが重要となる。
- パフォーマンス課題の解決を視野に入れた指導計画を立案する必要がある。ここでは、パフォーマンス課題を解決させる過程で、関連教科が着目した基礎・基本の意味や価値を拡げる「学びの文脈づくり」を意図しながら、ループリックを想定して、課題を解決できる指導計画を立案することが重要となる。

※ 新領域「サプリ・フィールド」の具体的な課題とその根拠については、実施報告の20～64ページを参照

◇ 総合的な学習の時間「フロンティアタイム」

- 生徒の探究をサポートする環境づくりのためにブースを設置し環境整備を行ってきた。しかし、各教師が、チューターとしての指導を軸としながらもブース教師としての指導も併せて行う必要があり、指導が煩雑となって生徒へ十分な対応ができない場面が見られた。ブースをより機能させるためには、ブースに関連の深いテーマを設定した生徒をある程度固定して指導を行うことが現実的である。
- ミニ授業は全生徒を20会場に分け、各会場で参観生徒による相互評価と教師からの評価を行っているが、評価の視点に対する共通認識が十分に図れていない面がある。チューターをはじめ、ブース、授業会場担当教師、及び生徒を含め、評価の在り方を検討して行く必要がある。
- 50時間のフロンティアタイムのテーマ設定から探究、ミニ授業に至るまでの日程が離れすぎていたり、一日探究の計画・準備を十分に作る時間がなかったりした。生徒の探究が円滑に流れていくように年間スケジュールを編成していく必要がある。

※ 総合的な学習の時間「フロンティアタイム」の具体的な課題とその根拠については、実施報告の80～91ページを参照

◇ 総合的な学習の時間「言いたか放談」

- 授業者がテーマを構造的に捉えずに授業を行った場合、議論の軸が定まらず、生徒自ら自分の見解を見出すことが困難で、テーマに対する認識の深まりも見られないことがあった。テーマ設定の際、授業者が問題の構造や議論の柱を十分に想定する必要がある。
- 教科の視点に偏りすぎたテーマ設定や議論の柱立てを行うことで、社会事象を狭義に捉えた見解に至るケースが見られた。豊かに生きるための主要因とかわりが深いテーマの設定が必要である。
- テーマの多様性や、1グループの人数を20名程度とするため、学年の枠を越え、担当学年以外の教師も担当した。テーマの多様性については成果も見られたが、時間割編成上、課題が残った。

※ 総合的な学習の時間「言いたか放談」の具体的な課題とその根拠については、実施報告の92～104ページを参照

福岡教育大学附属福岡中学校 教育課程表 (平成22年度)

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	選択	新領域	総合的な学習の時間		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語					サブリ・ワールド	言いたか放談	
第1学年	135	100	135	100	43	43	87	67	100	35	35	0	35	15	50	980
	-5	-5	-5	-5	-2	-2	-3	-3	-5				+35			
第2学年	101	101	101	135	33	33	87	68	101	35	35	0	70	30	50	980
	-4	-4	-4	-5	-2	-2	-3	-2	-4			-15	+70	-25		
第3学年	101	82	136	100	34	34	88	34	101	35	35	0	105	45	50	980
	-4	-3	-4	-5	-1	-1	-2	-1	-4			-45	+105	-35		
計	337	283	372	335	110	110	262	169	302	105	105	0	210	90	150	2940
	-13	-12	-13	-15	-5	-5	-8	-6	-13			-60	+210	-60		